

<北海道>

RUSUTSU 外国人観光案内所

ルスツリゾートのレストランでは、地元の食材をメインに使ったお料理を提供している。ウェスティンのレストランでは、4月ならいちごフェア、5月は留寿都村でとれたアスパラフェアなど旬の食材を使って、人気を集めている。

小樽国際インフォメーションセンター(運河プラザ観光案内所)

当案内所の施設を発着点として、「おたる案内人ボランティアガイドの会」がまちなみ散策ガイドツアーを実施している。このツアーは歴史的建造物が集中しているエリアをボランティアガイドの説明を聞きながら、散策するという内容。小樽は歴史的建造物が多く、それらを保存、活用していこうという意識があり、観光で訪れた方々に少しでも小樽のことを知ってもらいたいということで行っている。

白老駅北観光インフォメーション ポロトミンタラ

- 白老文化観光推進実行委員会:白老町で6月に、さまざまな分野のメンバーが加わったまちぐるみで地域の活性化を目指す「白老文化観光推進実行委員会」が立ち上がった。実行委員会は、会長に白老町長、顧問に町議会議員、アイヌ協会理事長が務めている。会長は商工会会長、副会長は観光協会会長、建設協会会長、町内会連合会会長、文化代替連絡協議会会長、そして委員にはNPO法人、青年会議所、文化芸術関連企業・団体と、各界で構成するまちぐるみの組織。「白老の文化芸術と観光経済の一体的推進によるまちの活性化」の目標で文化庁などの「日本博」採択を受け、「白老文化共創 ROOTS&ARTS」事業をスタートした。白老に根づく文化伝承・人の営み(ルーツ)を、住民と多様な来訪者のコミュニケーションを通して再発見・再構築(ARTS)する内容となっている。2021年度は2つのプロジェクト、「アーティスト・イン・レジデンス白老」と「シルキオ・プロジェクト」の事業を手掛ける。
- ウイマム文化芸術プロジェクト:ウイマム文化芸術プロジェクトの運営主体であるウイマム文化芸術実行委員会は、札幌市や白老町で活動する芸術団体やNPO、企業、地域の商業振興会、住民ら有志によって、2018年1月に白老町で設立された。関係者が培ってきた地域内外の人脈を財産に、白老、胆振を主な舞台として文化芸術事業を実践している。同実行委員会は「ウイマム文化芸術プロジェクト2021 歩いて巡る野外写真展「虎杖浜・アヨロ」を開催している。
- 飛生アートコミュニティー:旧飛生小学校を活用して1986年に設立された共同アトリエ。主に作品の制作や展覧会、イベント、プロジェクトなどを開催し、世代を継いで現在まで様々なアーティストが活動を続けてきた。近年は、年に一度、校舎やグラウンド、周囲の森を一般開放して開催する「飛生芸術祭」、森づくりを通じて森と人との共存を考える「飛生の森づくりプロジェクト」を実施するなど、アートを通じた交流の場としても機能している。この場、この土地でしか成し得ない創作、表現とは何かをずっと考え続け、多くの有志とともに協働を続けている。今年の「飛生の森と村祭り」は9月4日、「飛生芸術祭2021」は9月6日～12日開催する予定(報告当時)。
- 一般社団法人白老モシリ:アイヌ文化を保存し伝承する組織。小中学生向けのアイヌ文化体験を実施している。
- 白老民俗芸能保存会:アイヌ文化を保存し伝承する組織。

千歳アウトレットモール・レラ・トラベルサロン

SDGsに於いて、世界遺産の中の北海道知床五湖では、観光客が集中する夏場は地上歩道が混雑し、植生の踏み荒らしなどの被害が起きている上、夏場はヒグマの活動期にあたるため、出没にあわせて急に閉鎖するなど不安

定なオペレーションが続いていた。これを解決するため、安全に歩ける高架木道を設置。クマの活動期に地上歩道を歩く場合はガイドツアーの参加を必須とした。またシーズンによって入域制限や課金制度を導入して、環境への負荷を小さくする試みが行われている。その他、千歳支笏湖も推薦に値する。千歳エリアの魅力は、水質が高く自然景観の美しいカヌー開催場所が多いところ。環境省の水質調査で日本一に選ばれた「支笏湖」や、可憐な白い花が美しい千歳梅花藻が生息する「千歳川」など、カヌーツアー中に目を奪われる光景がたくさんある。
https://www.welcome-to-chitose.jp/archives/tourism_cat/play/activity

一般社団法人美瑛町観光協会

■野菜収穫体験・農地散策ツアー(アスパラがり体験、麦刈り体験、とうもろこしもぎ体験、ジャガイモ堀り体験など):農家の畑に観光客を案内し、農地の保護の重要性や農業の苦勞などに理解を広め、また、実際に農産物を自分の手で収穫。希望者にはその場で BBQ などにて食する体験も付加できる。認定のガイドが引率、美瑛の主力産業である農業者にも観光収入が落ちるよう、丘のまちびえい DMO 主催。

<https://mybiei.jp/event/>

■十勝岳ジオパーク構想事務局認定ガイドによる、美瑛、上富良野周辺のジオサイト(十勝岳周辺エリア、森林エリア、泥流被害やその防止に努める麓の市街地などのエリア)の紹介。町内外に理解を深めることにより、噴火の歴史を刻む場所の保存、将来(噴火)に備えるとともに、共生したまちづくりをめざしている。

<https://tokachidake-geopark.jp/geocourse/>

とかち観光情報センター

■鹿追町:北海道大雪山国立公園南部に位置する然別湖や、太古から続く森を散策しながら案内するツアーがある。然別湖周辺の山々は特異な地質・地形で日本最大級の風穴があり、今から 3、4 万年前の氷河期に大陸から北海道に渡り、氷河がなくなったあとも涼しい山岳地帯に残ったので、「氷河期の生き残り」と言われている「エゾナキウサギ」と遭遇できる。日本では北海道だけに生息している(然別湖ネイチャーセンター、ポレアルフォレスト)。

■上士幌町:大雪国立公園にあるぬかびら源泉郷には、数多くの旧国鉄士幌線コンクリートアーチ橋梁が残っている。当時、現地でとれる砂利や砂を使って大雪山国立公園の溪谷美に似合ったアーチ橋が多数作られていた。その中のひとつ、幻の橋と言われている「タウシュベツ川橋梁」は、北海道遺産に選定された。地元の NPO 法人「ひがし大雪自然ガイドセンター」は大雪山国立公園での自然体験・環境教育・環境保全活動を通じて、「地域の人々や訪れる多くの人々に自然の豊かさや価値を伝え、人と自然とのつながりを学び、大雪山を愛する多くの人々の輪を広げ、自然と共生する暮らしや町づくりをめざす」としている。

■帯広市:大正 8 年に建築された建物で、平成 29 年に国の有形文化財に指定された「宮本商産旧本社ビル」を利用して、「癒し・ゆとり・くつろぎ」の空間で、美味しい珈琲を！」をコンセプトに全国に店舗展開中の『さかい珈琲』が 2020 年 11 月に出店した。

■芽室町:芽室発展の歴史を見守り続けた赤レンガ倉庫を基点に「焼肉 KAGURA」が立ち上がり、地元で育てられた「未来めむろうし」のメニューを提供している。

■清水町:石造りの倉庫を改装して作られた「石倉家」は、量り売りステーキを楽しめるお店。目玉である「十勝若牛」はやわらかくてヘルシー。

■上士幌町:森の中に、養蜂家が運営するレストランがある廃校跡を活用し、上士幌町特産のナイタイ和牛を使ったハンバーグやステーキ、はちみつを使ったパフェなどデザートも用意している。また、豊岡ヴィレッジは旧豊岡小学校を改装し、イベントの開催や豊岡食堂&カフェの営業、商品開発などをすすめている場所。

■浦幌町:「TOKOMURO Lab」は廃校になった旧常室小学校で、自分たちがつくりたいモノや、やりたいコトを

みんなで力を合わせてカタチにし続ける、あたらしい複合施設。「うららパーク浦幌」は施設内にオープンした施設で、森や自然の大型空間映像に包まれる没入型デジタル森林浴空間を楽しめる。

- 新得町:北海道にある日本初のヒグマのサファリパーク。自然に近い環境で野性味あふれるヒグマの様子を間近で観察できる施設。冬には自然界に生息しているヒグマと同様に冬眠させ、ヒグマ冬ごもり、冬眠観察ツアーを開催している(ベア・マウンテン)。
- 帯広市:料理教室「Nob's 北海道キッチン」の料理体験。十勝の美味しい食材をふんだんに使用した料理を作る。食材の宝庫である北海道十勝の恵みが堪能できる。インストラクターには、十勝観光大使でもあり、地元を拠点に日本全国で料理教室を展開する梅安信子先生。ホスピタリティにあふれ、美味しく、美しく、心地よく体験することができる。

江差町観光情報総合案内所

- 無形民俗文化財の魅力普及活動:
 - ・北前船交易時代から伝わる民謡の「江差追分」は、江差追分会館で4月～10月まで11時、13時、15時の1日3回実演があり、入館した方は誰でも鑑賞できる。ご希望の方には、江差追分の唄い方の指導も。
 - ・追分会館には併設の山車会館があり、そこで山車を展示している。毎年8月に行われている北海道最古の祭りである「姥大神宮渡御祭」は、江差コンベンション協会に予約をすればお1人様3千円で参加でき、特別に山車を引く体験ができる(人数制限あり)。
- 国指定重要文化財の活用:旧中村家住宅は、江戸の終わりから明治にかけて建築された商家造りの伝統的建造物。コロナ禍においても感染対策を施した上で、見学いただいている。
- 古材再利用:江差に残る古い建物を解体した時に出る、梁や柱などの古材を再利用してテーブルや椅子に加工。歴史的な街並みを再現した「いにしえ街道」沿いの店舗で販売している。
- 地域内調達:2021年8月から始まった、グランピング&手ぶらキャンプ&海洋体験のイベントである「かもめ島マリニング～海と日本 PROJECT」では、町内から必要物資を調達することで、地域経済の活性化に寄与することを目的の一つとしている。宿泊者の食事を町内の複数飲食店に発注している他、サービスに含まれるガイドウォークは町内のガイド組織にお願いをしている。

JR 二セコ駅観光案内所

スタート地点に立ったばかりだが、ポストコロナを見据えた「持続可能な観光地域づくりモデル市町村」形成事業に参画している二セコ町の方向性に沿い、持続可能な観光の国際基準を学ぶ「GSTC 公式トレーニング」を実施。相互扶助で積み上げられてきた二セコ町の遺産を守るため100年先を見据え、地域、個人で取り組めることを町内観光関連事業者と一緒に考える機会を創出し、地域の環境や文化を守り維持し、町内経済を適切に循環させるべく取り組み始めている。

<東北>

青森市観光交流情報センター

- 環境の再生や賑わい創出などを目的に県が整備した「あおもり駅前ビーチ」が7月22日にオープン。このビーチではオープン以前からアマモの移植などの活動が行われており、今ではハギやカレイ、カニといった水生生物が見られるようになった。ビーチの管理・運営を行う民間事業者「TEAM CISOLA(チームシソラ)」では、ビーチヨガなどのイベントを不定期で開催している。
- 青森市浅虫地区では築100年以上の建物を、カフェや県外居住者を対象としたリモートワーク、ワーケーション用の宿泊施設として利用するなど、古民家の活用が進められている。「古民家カフェ apricot」は様々なメ

ディアで紹介されており、写真映えするスポットとしても人気。

- 市民や観光客に青森駅周辺を案内する街歩きガイド「あおもり街てく」。海沿いの景観を楽しみながら青森観光のハイライトを周る「風景コース」、街中に残る棟方志功や太宰治の足跡や郷土の歴史を巡る「歴史と文化コース」、昭和の雰囲気が残る商店街を探検する「味とショッピングコース」の3コースが通年利用可能で、参加費は無料(観光施設入館料と傷害保険加入時の保険料は有料)。地元小中学校の総合学習や、びゅうプラザ職員の研修にも取り入れられている。

弘前市観光案内所

- 「弘前ねぷたまつり」:初めて文献に登場してから来年(2022)で300年を迎える。昭和55年に重要無形文化財に指定され、現在も地域の町内会や有志が集まり、各団体が趣向を凝らしたねぷたを作成し、毎年8月1～7日に市内を運行する。

弘前観光コンベンション協会 https://www.hirosaki-kanko.or.jp/web/edit.html?id=cat02_summer

- 「古津軽」:岩木山を中心に広がる津軽地域に、古くから現在まで伝わっている祭りや信仰、芸能、食文化などを、津軽に息づくたくさんの小さな「ものがたり」とともに楽しむ「新たな観光ブランド」。鬼伝説、津軽伝承料理、こぎん刺し、りんご畑の中を走る鉄道など。

青森県中南部地域県民局地域連携部 <https://www.kotsugaru.com/>

- 「津軽まちあるき」:「ふかぐ、あさぐ(=津軽弁で深く歩く)」を掲げて地元のガイドさんとゆくディープなまち歩きツアー。

津軽まちあるき観光推進実行委員会(弘前観光コンベンション協会内)

https://www.hirosaki-kanko.or.jp/web/edit.html?id=tsugaru_machiaruki

- 「農のふれカフェ」:地元の野菜や果物をたっぷり使った料理やスイーツを、農家とふれあいながら食べる体験型カフェ(中南部県民局地域農林水産部により、農作業との両立が可能で初期投資が少なく、農村資源を生かした体験型のカフェの取組を推進するため、2017年から中南部地域「農のふれカフェ」推進事業としてスタート)。<https://www.cafe3f.space/>

- 「弘前里山ツーリズム」:岩木山のふもとで美味しい空気を吸いながら農業や田舎暮らし体験ができる。農業体験、農家民泊、ファットバイクやかんじきでの里山ライド&トレッキングなど。

(窓口は農業生産法人 有限会社 ANEKKO) <https://hirosaki-satoyama.com/>

弘前市立観光館

- 特にアジア圏からの訪日旅行者に人気の「弘前れんが倉庫美術館」が、2021年度フランス国外建築賞(AFEX Grand Prix 2021)のグランプリを受賞。約100年前に建てられた煉瓦倉庫は旧シードル製造工場でもあり、弘前の街や人々と共に歴史を刻んできた。壊すのではなく、現代美術館として未来へ繋げるコンセプト<記憶の継承>や素材を活かした補修修繕による<延築>の技術と建築デザインが高く評価された。リフォームされた部分の煉瓦の積み方は昔の人が積んだようにし、エントランス部分は「弘前積み」となっている。リフォームによって使われなかった煉瓦は玉砂利代わりに砕いて敷き、象徴的なチタン材葺き屋根の色はシードル・ゴールド。弘前公園には約2,600本の桜があり、うち約400本が100年以上の古木。大切に育む点に通じるものがある。

- 古津軽伝承料理を受け継ぎ、次世代へ伝えることを目的に2001年に結成された「津軽あかつきの会」^{いにしえ}。古の過酷な環境を生き抜いた知恵や暮らしを楽しむ工夫が生きる津軽の里を「古津軽」と呼ぶ。^{こつがる}時代が変わっても古びず色褪せない魅力を持った津軽地域(内陸部)の伝承料理が失われようとしている。昭和の中頃までは冠婚葬祭や田植えなど、主となる家に集まって料理を作り、客人をもてなしてきた。全て手作りの素朴な家庭料理

は、それぞれの家に伝えられてきた知恵や工夫を互いに教え合い、よりおいしく豊かなものになった。後世に残し、作り食べ継がれて欲しいと食文化の伝承活動をしており、予約制で食事を提供。青森県の観光振興にも協力している。古津軽 HP より https://www.kotsugaru.com/story/maine_story/maine_story02.html ・レシピ集『津軽伝承料理』:雪深い地域ならではの工夫を受け継いできた昔ながらのお母さんの味。津軽の食の知恵を調査し、レシピ化。保存の知恵、食材を使い、油脂や砂糖に頼らない調味、これらを駆使した 88 品を収録。レシピ掲載だけではなく、料理が生まれた背景や会の活動の本質にも迫った一冊。

- 「弘前感交劇場」:弘前の歴史や文化全てを世界自然遺産白神山地の恵みから齎されたものと位置づけ、弘前をはじめとする津軽地域全体を一つの劇場と捉え、地域住民も観光客も全ての人々が共感できる感動と交流の体験型ステージを展開するもの。具体的には、舞台は春夏秋冬の弘前、舞台背景は世界自然遺産白神山地、大道具はりんご園や弘前さくらまつり、弘前ねぶたまつり、小道具はりんごや津軽塗、ブナコ、地酒、音響は津軽三味線、津軽民謡、助演者は弘前市民など。弘前にある様々な観光資源を劇場に見立てた、新たな旅スタイルの提案。※「感交」と「観光」の違い:旅行の内容や楽しみ方は多様。それぞれの風景や風土、食べ物を味わうこと自体は変わらぬが、人との交わりを楽しみ、大切にす。

青森県観光情報センター

- 豊かな自然が残されている白神山地に残る「マタギ文化」。伝統的な生活文化とその基盤となる自然を保存・伝承することを目的としている「マタギ舎」によるエコツアー。
<https://matagisha.sakura.ne.jp/newecotour.html>
- 津軽地方の間伐材や、りんごの栽培で発生する剪定枝などをチップに加工し、燃料としている「津軽バイオマスエナジー」。
<http://www.tsugaru-be.jp/business.html>
- 日本一の蓄積量を誇る青森県のブナの木を利用するために開発された木工品の「BUNACO」。
<http://www.bunaco.co.jp/>

下北観光案内所

下北にはまだ「サステナブルツーリズム」に関連する観光コンテンツは非常に少ないが、海や山などの自然に恵まれ、観光資源が多い地域なので今後の取組みに期待している。現時点では観光名所や海水浴場の清掃活動など、観光客への配慮や環境保全としての取組みが目立つが、「NPO 法人 シェルフォレスト川内」では地域づくりを推進するため「むつ市地域おこし協力隊」の募集を行っている。選ばれた隊員は観光アクティビティの充実や地域の子どもたちの教育、海の循環を目指した SDG s 推進の活動を行う予定。

https://shell-forest.info/tiikiokoshi_recruit2021/

平泉観光案内所

- 宿泊交流施設「浄土の館」:能楽教室などを不定期で行っている。
<http://jodo-hiraizumi.jp/>
- 毛越寺 重要無形民俗文化財「延年の舞」:
<https://www.motsuji.or.jp/about/ennen.html>
- 宿泊施設「平泉倶楽部」:古民家を再生した一棟貸の宿泊施設。
<https://hiraizu-meets.com/yado/%e5%b9%b3%e6%b3%89%e5%80%b6%e6%a5%bd%e9%83%a8/#club-meal>
- 平泉レストハウス レストラン源:いわて黄金ランチ(地産地消メニュー)が楽しめる。
<http://www.hiraizumi2011.jp/>
- 平泉グリーンツーリズム:農家体験など。
<https://www.town.hiraizumi.iwate.jp/index.cfm/24,0,123,258,html>

NEXCO 東日本前沢サービスエリア下り線インフォメーション

小岩井農場は明治24(1891)年の創業以来、一貫して取り組む農林畜産業の営みの中で、緑豊かな環境を創出してきた。また130余年に及ぶ小岩井農場の歴史は、我が国の酪農をはじめとする畜産業の歴史であり、その生産工程・技術の発展の歴史でもある。この自然の素晴らしさや一般非公開の生産現場をご案内するガイドツアーや体験プログラムを行っている。

二戸市観光協会

生産量、品質ともに日本一を誇る漆の産地の二戸市浄法寺町では漆の木から樹液を採る漆掻き職人や、その漆を塗って漆器を作る塗師がおり、その浄法寺漆を使う作家の作品を同町「滴生舎」で取り扱うことで、観光客に地域の魅力を発信している。また企業や市民、地域の子供たちと一緒に毎年2万本ずつ漆の植樹を続ける計画もされており、たくさんの人で伝統を守っている。

仙台多文化共生センター

コロナ禍の中では、他県への移動の自粛が叫ばれている影響もあり、改めて地産地消を含めた近場の観光が注目されることとなった。その際にマイカーを持っていない旅客にとっては、市バスが市内の観光施設に向かう公共交通手段として見直され、日々の交通手段がサステナブルツーリズムにおける重要な役割を得ていると考えられる。SDGの目標のなかにもあるバリアフリーと環境への配慮として、ここでは市バスの取り組みを紹介したい。

- ・仙台市内の観光において重要な役割を担っているシティループバス「るーぷる仙台」は、バリアフリー対応として、リフト付き車両、ワンステップバス、ノンステップバスが導入されている。
- ・「るーぷる仙台」の運行ルート以外の観光施設に向かうための通常の市バスには、環境にやさしいバスということで、アイドリングストップバス、天然ガスで走るCNGバス、ディーゼル電気ハイブリッドバスの車両が導入されている。これらの車両は今後増車される計画となっている。

仙台市交通局 市バス 市バスの車両 <https://www.kotsu.city.sendai.jp/bus/sharyo.html>

NEXCO 東日本長者原サービスエリア上り線インフォメーション

NEXCO 東日本長者原サービスエリア下り線インフォメーション

「雁」のねぐら入り観察会の実施場所であるラムサール条約湿地帯「化女沼」は貴重な渡り鳥の越冬地となっており、特に亜種ヒシクイは毎年約2,000羽以上が飛来し、東南アジアに生息する個体数の1%以上を支えている。ラムサール条約湿地帯とヒシクイ、ガンの理解と保全を目的とし、渡り鳥の専門家の解説つきの観察会を実施している。(詳細はNEXCO 東日本 仙台管理事務所※毎年12月頃実施)

宮城県観光情報発信センター

宮城県農政部の取り組みで「みやぎ INAKA で遊ぼう泊まろう」というプログラムがある。自然の中でその町の農作物の収穫体験や漁業体験、昔ながらの知恵が詰まった料理作り体験、伝統工芸(こけしの絵付け体験など)の参加型のメニューが多彩で、魅力的な「農泊」を体験できる。

もがみ情報案内センター

■山形県が推進する「やまがた森林ノミクス」を最上地域で学ぶツアーを新庄市商工会議所で商品化した。SDGsと絡めた内容となっており、新庄最上地域の地位産業を資源ととらえ観光を連携させたツアー内容。NPO 法人田舎体験塾つのかわの里(戸沢村)がコーディネートし、広く利用を募ったところ、実際に仙台市の教育旅行1泊2日に取り入れられた。行程は、木製バイオマス発電所、製材工場、苗場見学、杉の植林作業の体験。修学

旅行・教育旅行で本県を選択する学校も増えていることからツアーの利用を広く呼び掛けている。

■大蔵村肘折温泉は山菜の宝庫。毎年5月中旬～6月中旬に開催されている「肘折温泉山菜の食まつり」では、肘折温泉ならではの食文化体験と料理の提供をしている。内容は、以下の通り。

- ・ベジタリアン対応可能な各旅館こだわり山菜料理
- ・山菜採り体験と温泉、山菜昼食(地元ガイドの案内で肘折周辺の山菜採り体験後、肘折いでゆ館(日帰り入浴施設)にて入浴。その後は採った山菜で山菜昼食)
- ・肘折山菜学校(調理・保存学、わらび採り体験、山菜給食)
- ・本格わらび採り体験(わらび採り、いでゆ館で入浴後、昼食)

これらのプログラムが組まれている。いずれも要予約。

NEXCO 東日本安達太良サービスエリア上り線インフォメーション

福島県奥会津昭和村「からむし織」:地元で栽培された「からむし(苧麻・青苧)」を材料に多くの手間を得て織る織物であり、化学繊維では成し遂げられない通気性、吸収性に富み、古来から受け継がれている。古くから続く技術が評価され、国の伝統的工芸品に指定されている。「からむし織体験」もあり。

- ・問合せ:道の駅からむし織の里しょうわ 織姫交流館 0241-58-1655

NEXCO 東日本安達太良サービスエリア下り線インフォメーション

「福島市民家園」では、江戸時代中期から明治時代にかけて、民家や芝居小屋などを移築復元した古民家が立ち並ぶ。復元した建物の多くが文化財に指定されており、藁ぶき屋根や囲炉裏など当時の生活様式を知ることができる。また、年中行事の再現やわら細工などの体験行事の伝承活動も行っており、より当時の生活を体感することができる。

<関東>

つくば総合インフォメーションセンター・観光案内所(BiVi つくば 1階)

筑波山ジオパークには、日本百名山の「筑波山」、国内第二の湖面面積を持つ「霞ヶ浦」、日本最大の広さを誇る「関東平野」が含まれる。つくば市では、豊富な自然を使つての教育(防災・環境保全・郷土愛の醸成)、保全(地形・地質・生物・生態系・歴史・文化・産業)、観光(ツーリズム・特産品開発・施設など整備)を主軸として地域振興を図っている。

NEXCO 東日本友部サービスエリア上り線インフォメーション

「天ぷらバスで行く・ハーブ畑へ日帰り旅&農業体験」が7月に行われ、行方市のハーブ畑へ、家庭で使用された廃食油を回収しリサイクルした燃料「BDF」100%で走る観光バス(通称:天ぷらバス)に乗って向かい、農作業の体験などをした。次回9月19日(予定)には野菜の収穫をし、屋外でのカレーの自炊を企画している。

NEXCO 東日本 Pasar 守谷上り線インフォメーション

サービスエリア内のフードコートにおいて、(店舗によるが)茨城県産の食材を使ったメニューを出している。上り線では地元の農家さん達による「野菜販売所」があり、お客様に好評。

道の駅 ひたちおおた 観光案内所

「かなさ笑楽校」は廃校を活用した宿泊施設で、地元の方から教わるそば打ち体験や青大豆豆腐作り体験ができる。

鬼怒川・川治温泉観光情報センター

国立公園という立地の中、自然環境の保護・保全を推進し、観光と共存することで、より豊かな自然とのふれあいを感じることができる環境づくりに取り組んでいる。

- ・エリアを流れている鬼怒川に沿って立ち並ぶ温泉宿や鬼怒川を利用したレジャー(ライン下り、ラフティング、カヤック、キャニオニング、カヌーなど)
- ・鬼怒川の自然を利用した龍王峡ハイキング、鬼怒川・川治まち歩きツアー(ガイド付き)

NEXCO 東日本佐野サービスエリア上り線インフォメーション

栃木県芳賀郡茂木町は、自然豊かな地域で天然アユや鮭の遡上やタバコの栽培が有名な地域だ。しかし、人口の減少とともに、町の過疎化・高齢化が進み、深刻な問題となっていた。しかし、近年では廃校を利用した体験宿泊施設「昭和ふるさと村」や農村レストランのオープン、体験農園など現在の環境を生かした町興しビジネスが広がり、観光客を呼び込んでいるようだ。

奥日光インフォメーションセンター

インフォメーションセンターを運営している日光自然博物館では、シカによる食害の実態や、狩猟と自然保護への理解を深めてもらうため、「狩猟&ジビエ体験」として、ハンターらによる講演や捕獲したシカの解体などを実施している(冬季限定)。

太平記館

足利観光交流館 あし・ナビ

足利市は「歴史都市宣言のまち足利」の名のとおり、市内各所に多くの文化財が点在している。例年、秋には「文化財一斉公開」と題し、その文化財の所有者である社寺様などにご協力いただき、普段は見る事が出来ない貴重な文化財が特別に公開されている。毎年多くの方々から好評をいただき、観光客の方も多く訪れる(今年は新型コロナウイルスの感染リスクを考慮し中止)。

群馬県高崎市観光案内所

高崎まつりの中で行われる「高崎山車まつり」は保有台数全国一を誇り、明治時代から続く歴史あるイベントである。山車の上に載せる人形なども地元のひな人形などを作る企業が請け負い、市民によって支えられている。また全国生産量1位を誇る高崎だるまも「創作ダルマ神輿」というジャンルで祭りに取り入れられ、地元町内に「山車が無い」、「神輿の会にも所属していない」など、参加したくても出来ずにいる人でも、自分達でオリジナルの神輿を作って参加できる。町以外にもつながりの軸が多様化している中で、様々な団体が参加しオリジナルだるまを競っている。花火大会も合わせ、現在では来場者数約70万人を誇る夏の一大イベントとなっている。(2020、2021年は中止)。

前橋駅観光案内所

前橋市では赤城山周辺地域の6市村が連携し、コロナ禍でも楽しみやすいサイクリングツーリズム事業を始める。6市村にまたがる初級者から上級者までの6つのコースがあり、各種イベントと連動させながら赤城山の自然の魅力を発信していく。スタンプポイントを巡る「AKAGIスタンプラリー」、電子チケットを使って美味しいグルメを食べて、のんびりポタリングを楽しむ「ぐるポタAKAGI」など、様々な企画を展開しながら、ナショナルサイクルルート指定に向けた環境整備を図っていく。外国籍の旅行者も含めた自転車愛好家も呼び込み、赤城山の大自然を商品とした環境に優しい観光に取り組んでいる。

まちなか観光物産館「お富ちゃん家」

- 「農家民宿ひなた」:農業体験ができる宿泊施設。冬場には群馬の郷土食“おつきりこみ”の麵打ち体験ができる。また、蕎麦の栽培から麵打ちまでのようにストーリーを持たせた農業体験を提供。
<http://www3.wind.ne.jp/vanstaf/sp/Vansoft00.htm>
- 「MABUSHIya ー簇屋ー」:古民家を改装して造られた宿泊施設。
<http://www.mabushiya-tomioka.com/>
- 「ときわ壮」:旧櫛瀨家住宅主屋を使った日本料理屋。国の登録有形文化財に指定されている。
<https://www.tokiwaso.net/>
- 「妙義山ビューライド」:サイクリングを通じ、参加者と市民との交流により、地域のスポーツ意識の高揚や活性化につなげるとともに、妙義山や周辺の観光スポットを広く全国に知っていただくことを目的とした大会。
- 「富岡シルク」:お土産として様々な製品を販売。富岡市内の養蚕業を守り、次世代に継承することを目的としている。
<https://www.tomioka-silkbrand.jp/> <http://www.mabushiya-tomioka.com/>

川越市川越駅観光案内所

地元の商店街によって、店蔵を隠していた看板の撤去、街灯の整備、電柱の地中化など、蔵造りの街並みを中心とした建築物保存の取り組みが行われている。また、ユネスコの無形文化遺産に登録されている川越まつりでは豪華絢爛な山車が町内を練り歩く。その山車は川越まつりの展示を行う観光施設に常時展示されているため、祭り当日でなくても伝統文化を楽しむことができる。その他、産業観光館では地元商店や地元企業より食品や雑貨などの寄付を集め、地元の支援団体に寄付をしている。

NEXCO 東日本上里サービスエリア下り線インフォメーション

富岡製糸場では、外国語パンフレットが多数あり、周囲にもお土産屋にも外国語の表記がある。製糸場にちなんでお蚕の糸で作られた商品も販売し、観光客に文化を知ってもらいながらお土産品や周辺の昔の街並み地域にあるお店でお食事をしていただき、経済社会を守っている。周辺にはいくつかの観光施設が集まり、集客を増やしている。新たな観光地も増えるそうだ。

NEXCO 東日本上里サービスエリア上り線インフォメーション

日本の伝統工芸「こけし」を作成している卯三郎こけしでは、世界中で大人気、日本のサブカルチャーでもある漫画「鬼滅の刃」のキャラクターや映画「スターウォーズ」のキャラクターなどをこけしで作成し、日本人や外国籍の方に高い評価を得ている。通常ではこけしの絵付け体験もできるが、コロナ禍での今はこけしの絵付けセットを購入して頂き、お家で好きな色付けをできるように工夫をしている。

千葉市観光情報センター

- 稲毛海浜公園のグランピング施設「small planet CAMP & GRILL」は、『自然環境と人が共存、循環する』をテーマに施設を運営している。同施設では、フードロス無くすため、提供された食事の食べ残し(生ごみ)をコンポスト処理し、有機肥料として公園内のハーブ園や森、契約農家の農場へと運び活用する取り組みを行っている。
- 千葉氏(千葉の礎を築いた一族)と所縁のある千葉神社では、毎年「妙見大祭」が行われ、1127年から一度も途切れることなく今年で895回を迎えている。

JR EAST Travel Service Center(成田国際空港 ターミナル 1)

印旛郡栄町にある「県立房総のむら」は、参加体験型の博物館。平成 16 年には「千葉県立房総風土記の丘」と統合して、房総の伝統的な生活様式や技術を直接体験するとともに、県内各地から出土した考古遺物や、商家、武家屋敷、農家などの展示を通して歴史を学んで頂くことを目的とする博物館として国内外の方から親しまれている。

海ほたるパーキングエリア 4 階インフォメーション

木更津市に 6 カ所、富津市に 1 カ所ある潮干狩り場は毎年 3 月～8 月まで多くの人出で賑わう。昨年、今年とコロナ禍で、緊急事態宣言発令に伴い閉鎖する会場もあったが、沢山の方が楽しみにしている。そのような中、東京湾に唯一残された自然干潟「盤洲干潟」を守るため、木更津市では 5 月に「盤洲干潟クリーン作戦&自然観察会」(自然環境の素晴らしさに触れながら、干潟に漂着したゴミを片付ける)というイベントを行った。

南房総市観光インフォメーションセンター

「サステナブルツーリズム」を推進するため、SDGs14 の「海の豊かさを守ろう」に焦点をあてたページを作成した。また、プラスチックアート作り体験を商品化し、販売を始めた他、プラスチックアート展なども行っている。 <https://www.cm-boso.com/sdgs.html>

流山おおたかの森駅前観光情報センター

流山市には「ナガレヤマイイカモ」という流山を象徴するコトやモノをオリジナルのカモフラージュデザインにし、それを通して発信していくプロジェクトがある。この柄やロゴマークは一定の基準を守れば誰でも自由に使える。当センターではこのカモフラージュ柄の風呂敷を作成し、風呂敷講座を開催している。風呂敷柄を通じて流山のコトやモノを PR する良い機会になると共に、風呂敷文化の再認識にもつながっている。

JR EAST Travel Service Center (東京駅)

「重要文化財 東京丸の内駅舎」:大正 3 年の開業から現代まで 100 年以上にわたり、数々の歴史の場面を見てきた現在の東京駅丸の内駅舎は保存・復元工事によって平成 24 年(2012 年)に完成した。開業時のホームの支柱、0 キロ標識(ゼロキロポスト)、東京駅の石碑、駅舎ポスト、原首相遭難現場、浜口首相遭難現場などをはじめ駅舎の 3 階外壁の復元に伴い、柱の形状も創建当時の姿に戻すなど創建時と現代の意匠が調和する建造物である(見学可)。

JR EAST Travel Service Center(羽田空港国際線ターミナル)

川崎キングスカイフロント東急 REI ホテルは、羽田空港の対岸部に位置し、車で 10 分程のアクセスのアーバンリゾートホテルで、家庭から集められた使用済みプラスチック由来の水素エネルギーを利用した世界初の水素ホテルである。ホテルで使用されるアメニティの歯ブラシとヘアブラシも、他のゴミとは別に回収されてリサイクル工場へと送られ、水素エネルギーとしてホテルに戻ってくる循環型の仕組みとなっている。宿泊者は環境のことを意識しなくても、自然と川崎の環境に貢献できるようになっている。

両国観光案内所

当案内所では物販所も併設しており、地元墨田区の伝統工芸品(江戸切子、江戸木目込人形、錆かんざし他)をはじめ、地元の和菓子(言問団子、長命寺桜もち、志まん草餅他)、北斎関連グッズ、相撲関連グッズなどを内外の旅行者に購入いただくことで、地元伝統工芸の継承や地場産業振興の一助となっている。

東京シティアイ

東京都における唯一の村である檜原村では、エコツーリズム滞在として古民家宿泊体験ができる。滞在中は、地元の農業支援体験や文化体験、名産品も味わうことができる。むらびとりっぷより予約が可能(※新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言により、現在は受付停止中) <http://www.murabitrip.tokyo/>

まちの案内所 町田ツーリストギャラリー

町田市には、かつて鎌倉と府中を結んでいた宿場町の名残がある「小野路」という場所がある。ニュータウン開発をまぬがれ、歴史環境保全地もある日本の原風景が残る貴重なエリアである。こちらにある「小野路宿里山交流館」は、江戸時代、小野路宿にあった旅籠・旧「角屋かどや」を改修した施設で、小野路の歴史・自然・文化にふれあう拠点施設として、また、地域の里山などを散策する方の休憩施設として、整備したもの。江戸時代の旅籠の風情を感じながら、誰もが気軽にのんびりと過ごせる施設となっている。地元の方々による保管、整備、運営のお陰で多くの観光客を魅了する場所である。

こだいら観光まちづくり協会

密にならない、市内における誘客イベントとして、Instagram フォトコンテストや市内店舗(業種問わず)での買い物時に発行されるレシートを集めて応募していただき、当選者には市内の店舗で使える商品券プレゼントするキャンペーンなどを開催することで、市内の店舗の経済支援に協力している。

JAPAN RAIL CAFE

「銀座ミツバチプロジェクト」(養蜂)中央区銀座:銀座では、銀座ミツバチプロジェクトと言われる養蜂を行っている。蜂が地域の環境資源を運ぶことで、地域の緑を維持し、更に銀座周辺の環境と生態系を感じることを目的とした取り組みである。銀座ミツバチによって作られた蜂蜜は、地域のお菓子屋さんの材料となり、更に蜜蝋を使ったキャンドルは 銀座の教会で使用されるなど、地域活性化にもつながっている。

横浜駅観光案内所

- 国登録有形文化財の木造建築「金沢園」に「カフェ金沢園」を設立。建物は1929年に品川から金沢区の海沿いに移築した木造建築。1930年に旗亭(宿泊のできる料亭)金沢園として営業を始めた。その後2016年まで料亭として営業、所有者と異なる企業が2020年5月まで旅館として使用していたが、所有者が「あらためて、この伝統ある建物を有効に使いたい」と2020年9月にカフェを始めた。軽食をとるだけでなく、高齢者など地域の人が集い、落ち着くことのできる場を目指す。
- 横浜市中央卸売市場 市場一般開放(現在はコロナ感染症防止のため中止):毎月第1・3土曜日の午前9時から午前11時まで市場を開放し、一般の方々にお買い物を楽しんでいただいている。また、マグロの解体ショーや魚の知識を知ることができるおさかなマイスター教室、魚のさばき方教室なども開催し、来場者に地産の魚の紹介や料理体験の場として大変好評をいただいている。

桜木町駅観光案内所

- ZOU-NO-HANA FUTUREScape PROJECT 2021:赤レンガ倉庫と大さん橋客船ターミナルに間に位置する象の鼻テラスにて、環境・災害・食・健康・教育・花と緑の6分野にフォーカスしたSDGs達成に貢献するプロジェクトが開催される。目玉は世界的な新型コロナウイルスの感染拡大を受け、「ニュー(ノーマル+クリエイティブ)ライフ」をテーマに市民や企業から募集する公募プログラム。

https://www.welcome.city.yokohama.jp/eventinfo/ev_detail.php?bid=yw9006

■工場夜景ジャングルクルーズ: <https://reservedcruise.com/yokohama-cruise/fact/>

小田原駅観光案内所

「まちのコイン」という仕組みを活用し、「人と人とつながること」、「地域と人とがつながること」、「地域によること」に関するイベントへの参加や行動することでポイント(小田原のポイントの単位=おだちん)を得て、そのポイントを使用して店舗などのスポットでの得点が得られるなどの循環を作ること、「地域活性化」や「SDGsの自分ごと化」につなげていく事業に協力している。

横須賀観光インフォメーション スカナビ i

当地は、海、山など豊富な自然に囲まれ、かつ各地に歴史遺産、文化遺産も多く残されている。両方を兼ね備えた人気観光スポットとして、陸から船で10分足らずの無人島である猿島を挙げるができる。沖合の綺麗な海に囲まれており、島には緑が多く、その中に歴史文化遺産、戦争遺跡が混在する極めてユニークな島である。ジブリのアニメ「天空の城ラピュタ」の廃虚そっくりの要塞跡や明治時代の発電所などの建造物を巡るガイドツアーも実施されている。島内を巡り、時代の変遷において、猿島が果たしてきた歴史的役割についての見聞も広めることができる。当地には、猿島のみならず、自然、歴史をテーマにした観光スポットが数多く存在しており、戦争遺跡から平和の意義を改めて認識する機会を得たり、市内に点在する自然教育園を通じ、自然環境保全・維持の重要性も学習できる。また横須賀に点在する開国から近代につながる歴史、文化の見どころや自然豊かなスポットをルートでつなぐことで市内全体を大きなミュージアムとしてとらえ、各自の目線で独自のルートを創出し、市内めぐりを楽しむというユニークな旅の形を演出する「よこすかルートミュージアム」という企画も推進している。SDGsの目標に沿った多様なツーリズムをグローバルにも発信・展開できる環境の整備をはかっている。

山梨県立富士山世界遺産センター

富士山レンジャーと呼ばれる、富士山の環境保全活動をしている方々が常駐している。地元の若者が地域と連携して活性化のための活動を行っている。

中央道 談合坂サービスエリア 上り線 エリアコンシェルジュ

中央道 EXPASA 談合坂 下り線 エリアコンシェルジュ

山梨県内の小菅村では、地域に分散した古民家を再生し、ホテルとして活用する取り組みが行われている。

<北陸信越>

NEXCO 東日本越後川口サービスエリア上り線インフォメーション

NEXCO 東日本越後川口サービスエリア下り線インフォメーション

- 新潟県南魚沼市「塩沢つむぎ記念館」:雪と民話の国奥越後に悠久千年の昔より伝わる「塩沢の織物」の文化を発信している施設。塩沢紬を使用した着物などを販売する他、絹糸を使った「手織り体験」「綴織り体験」などの機織り体験や、塩沢織の生地を原料とした「小物づくり体験」「コースター作り体験」などが年中楽しめる。
- 新潟県小千谷市「サンブラザ内 織之座」:江戸時代初期に誕生し、現在は重要無形文化財として国内外から注目を浴びている小千谷縮を見て、触れて、体験できる施設として、小千谷の織物を手軽に学べる場所。コースター織、かすり織、リボン作りなど、20~30分からと短時間でお手軽な体験ができる。
- 新潟県南魚沼市「田舎体験村 上田の郷」:一年中楽しめる体験メニューとして、そば打ち、あんぼ作り、ちまき作り、一輪挿し、抹茶体験がある他、米どころ南魚沼市・魚沼市ならではの田植え体験、秋の稲刈りや、豊

●8月のお題「サステナブル・ツーリズム～観光の力で地域の環境や文化、経済社会を守る地元の取組の紹介」(東日本) ◎ビジット・ジャパン案内所(Vol.502)
富な雪を活かしたかまくら体験など季節限定の体験も楽しむこともできる。

道の駅 クロステン十日町

サステナブルツーリズムへとつながる活動として、「大地の芸術祭」の取り組みを紹介する。その取り組みは1994年に市内の沿道にお花を植えて来訪者をおもてなしするところから始まり、次に地域の魅力を発掘するためにフォトコンテストを実施。その後、総合ディレクターとして北川フラム氏が就任し、アートを介在した地域活性化活動が始まった。人口5万と1万未満の十日町市と津南町が世界最大規模の国際芸術祭の舞台として発展するまでの軌跡を以下のリンクからご覧になれる。アート作品は十日町市と隣接する津南町(東京都23区と同じくらいの面積に相当)に200点以上点在しており、作品の制作やメンテナンスは国内外のアーティストと地元、国内外から参加するボランティアの協働により行われている。また、その取り組みは単なるアート作品の展示に留まらず、廃校や空き家を再生し、アート作品や美術館、宿泊施設として運営、地域で古くから親しまれている商品の外装をお洒落なパッケージにして販売するプロジェクト、耕作放棄された棚田を引き受け寄付(オーナー)を募り、収穫した新米をオーナーへ届ける「まつだい棚田バンク」事業、この地に移住して農業と作品のメンテナンス作業を行いながら活動する女子サッカーチーム「FC越後妻有」など、多種多様な活動が展開されており、地域の雇用の創出にも貢献している。 <https://www.echigo-tsumari.jp/about/history/>

村上駅前観光案内所

【伝統・文化資産に触れる、購入する】

- 山間部に伝わる灰の文化＝リサイクルの文化:山間部の集落には、暖を取る、食事を作る際に出た灰を活用して暮らす文化が残っている。その知恵を活かして作られる郷土料理や工芸品は、その土地でしか味わえないものであり、市民にとっても貴重な品となっている。現在お土産として購入できる代表的な特産品は以下の通り。
 - ・「羽越しな布」:2005年に経済産業省の伝統的工芸品に指定されている。名刺入れやブローチといった手に取りやすい小物も多く販売されている。作り手の後継者不足が心配されている。
 - ・「トチ餅」「あく笹巻」:調理の工程で灰を使用しており独特の風味が人気。購入の他、体験可能な施設もある。
- 村上木彫堆朱(1976年に伝統的工芸品に指定):江戸時代にその基礎が出来上がったと言われる村上木彫堆朱は、木地師、彫師、塗師がそれぞれで工程を請け負っており、完成するまで26以上の工程を踏む。市内の販売店や村上木彫堆朱会館で購入でき、木彫り体験や塗り体験が可能な所もある。購入した商品は基本的に塗り直しや修理を頼めるのでお気に入りの品を長く愛用できる。
- 三ノ丸流鮭塩引き道場:塩引き道場では、毎年秋になると塩引き鮭の作り方の講習会が開かれる。観光客の参加も多く、何年も通うリピーターもいる。多くの市内の小中学生は郷土について学ぶ授業の一環で塩引き鮭づくりを体験するが、市民以外にも村上の伝統的鮭料理・塩引き鮭の製法を伝承する機会を設けている。

【暮らしぶり体験】

村上市高根にある「農家民宿ざいごもん」では四季折々の農業体験を宿泊のオプションとして体験できる。コロナ前には訪日客もよく訪れていた。また同じ地区には1928年建築の古民家をリノベーションしたゲストハウス「瑞泉閣」がある。高根に暮らす人と高根を訪れる人が集う場所としてオープンしたゲストハウスは、「イベント開催日に宿泊する方にはイベントへの参加をお願いする場合がある」とHPに記載があるように、地域の暮らしに観光客がお邪魔して、その暮らしぶりや文化を体験するといったユニークな観光ができる。

【ガイドツアー】

現在は活動休止中だが、コロナ前は村上の城下町をガイドと一緒に巡れるツアーが人気であった。歴史に詳しいガイド、城下町で生まれ育ったガイドなどが歩きながらその街の歴史や文化を解説。旧町人町の町屋の外観は、市民基金による町屋を整備再生する「むらかみ町屋再生プロジェクト」によって整備されている。また、通称「黒

堀通り」と呼ばれる小路の外壁は、昔ながらの黒塀を市民が復活させる「黒塀プロジェクト」によって整備されている。ガイドは案内中に上記の町づくりの経緯を観光客へ伝える役目を担っており、ガイド案内を聞いた観光客の中には市民プロジェクトへの寄付をされる方もいる。

佐渡相川観光案内所

相川観光案内所では、月に1~2回を目標に地元のボランティアの方たちと一緒にクリーン活動をしている。地域住民の皆さんが大切にしている伝統文化や観光スポットを知って頂けるきっかけや、地域住民の生活環境を守るうえで地域と地域、人と人との繋がりも感じることもできる取り組みである。綺麗な場所を観光客の方に自信をもっておすすめできるので、これからもずっと続けていきたい。もう一つの取り組みとしては、電動自転車レンタサイクルを実施しており、9月末からスポーツタイプのE-バイクを導入予定。相川地区は坂道が多いが、らくらく観光できると訪日旅行者にも大変ご好評いただいている。

道の駅のと里山空港

能登の伝統食(発酵食)を活かした地域づくりの研究会が発足。今後活動していく。

長野市観光情報センター

- 長野市とその周辺には、豊かな自然を活かしたトレッキング、ウォーキング、トレイル、自然観察、サイクリングなど、自然共生型のアウトドアアクティビティが多種多様にある。また、善光寺や戸隠神社などの伝統・文化資産にも恵まれ、観光業は地域経済を支える主力産業の一つになっている。
- (公財)ながの観光コンベンションビューローでは、北信濃のサイクリングコースを紹介するサイトを設けた。
<https://www.nagano-cvb.or.jp/cycling/>
- 当案内所では、歴史と文化を体験していただくため、宿坊での宿泊や精進料理、座禅、写経、善光寺で毎朝早朝に行われる「お朝事」と「お数珠頂戴」、善光寺七福神めぐりなどを案内している。
 - ・善光寺宿坊組合 <https://www.zenkoji.jp/shukubo/>
- (公財)ながの観光コンベンションビューローは年に数回、戸隠神社で「早朝お掃除体験」を企画し参加者を募っている。
- 地元の食文化の料理体験ではそば打ち(戸隠、飯綱高原、鬼無里他)、おやきづくり(小川の庄他)などの体験教室が市内各地にある。戸隠には伝統的工芸品の根曲がり竹を使った竹細工の体験教室もある。
 - ・そば打ち:そば博物館とんくるりん(4~11月) <https://www.togakushi-tq.jp/>
 - ・おやき:小川の庄大門店(通年) <https://www.patio-daimon.com/shop/oagawa.php>
 - ・竹細工:戸隠竹細工センター(4~11月) <https://www.togakushi-takezaiku.com/>
 - ・竹細工:原山竹細工店(通年) <https://togakushi-21.jp/spot/373/>

長野道 梓川サービスエリア 下り線 エリア・コンシェルジュ

- 「白馬村のエコペンション」:近年の雪不足の原因の一つに気候変動をあげ、環境に配慮した宿泊施設を提供している。客室は無垢のフローリングや珪藻土の壁など、自然の素材で仕上げている。また、CO2削減のため、料理は地元の食材を使い、電力は太陽光発電にしているなど環境にやさしい取り組みをしている。
- 「カミツレの里・カミツレの宿八寿恵荘」:長野県北安曇郡池田町にある「カミツレの里」内にある、日本で初めて「ビオホテルジャパンの認証」を受けた八寿恵荘は、食事をはじめ使用する化粧品、寝具などが可能な限りオーガニックまたはオーガニック相当を使用。ホテルの建材も自然な素材を使用し、再生可能エネルギーの活用やCO2排出量の削減といった環境への配慮もしている。寝具もオーガニックコットン100%。枕カバー

はカミツレの里で栽培されたカミツレで染め上げており、洗濯も自然由来洗剤を使用している。また、食堂では化学調味料や添加物を一切使用しないオーガニックな食事が楽しめる。食材は、自社農園や地元池田町の契約農家で育てられた野菜が中心。「華密恋の湯」は環境にやさしいバイオマス燃料である木質チップで温めており、地元の間伐材などを利用して山の環境保全や地元林業の活性化にも繋がっている。

- リンゴの木オーナー制度:長野県内にはりんごの産地が数多くある。リンゴの木オーナー制度を行なっている農園さんも数多くあり、この制度は「消費者がりんごの木を丸ごと借り受けてオーナーになり、収穫までは園主が木の管理を行ない、収穫期にその木の収穫分を全てもらうことができる」という仕組み。りんごの成長の様子なども知ることができる。木1本分のりんごが手に入るだけでなく、実際に園を訪れ、収穫の喜びを実体験することができる。もぎたてのおいしさは感動もの。大自然の中での農業体験は県外の方からも好評で、1シーズンごとの募集だが、何年も継続しているオーナーの方もいらっしゃる。新鮮なりんごが手に入るだけでなく、その土地に暮らす人の温かさに触れられるのも魅力のひとつ。

長野道 梓川サービスエリア 上り線 エリア・コンシェルジュ

- 伝統工芸品「飯田水引」を使った水引工芸体験:飯田には、日本の伝統工芸である水引工芸が息づいている。古くから、水引は人と人、心と心を結ぶものとして育まれてきた。体験コーナーは、飯田水引協同組合の協力で開催。市内の老舗水引製品メーカーの職人が動画投稿サイト YouTube にアップした「あわじ結び」や「梅結び」の作り方動画をスマートフォンで見ながら制作する。好きな色の水引を選び、鈴やビーズを付けることもできる。体験できるのは一度に8人ほど。受け付けは9時～15時。体験は16時まで(第1水曜は休み)。
問合せ:エス・バード内の売店 おいでなんしょ Tel0265-52-1615
- 石井味噌:「三年味噌に余念なし」と言われるほど、製造方法には妥協しない。ぜひ立ち寄ってみてほしいのが創業から150年以上の歴史を持つ老舗の「石井味噌」。ここでは最高級三年味噌の味噌蔵を見学することができる。お味噌汁の無料サービスをはじめ、ランチでは豚汁やみそ焼おにぎり、味噌アイスなど、味噌尽くしのメニューを楽しむことができ、長野県の名産品を店舗で購入することも。お土産にもきっと喜ばれるはず。営業時間は8時～17時(毎日営業(売店・見学))で、蔵元のランチは11時～14時。
問合せ:Tel0120-141-302(受付時間 8時～17時)
- 「木曾 BYAKU Narai」:重要伝統的建造物群保存地区に選定されている奈良井宿における約200年前の酒造と宿を改修し、宿泊・レストラン・酒蔵・バー・温浴施設・ギャラリーの6業態で構成された小規模複合施設として利活用している。レストランでは地域に受け継がれる郷土料理や調理法といった食文化をアレンジしたメニューを「食体験」として提供している。

諏訪市観光案内所

諏訪市で昔からの5軒の造り酒屋をまわる「酒蔵めぐりクーポン」、諏訪湖をカヤックでめぐる「諏訪湖カヤック体験」、霧ヶ峰高原を中心にトレッキング、ハイキング、キャンプ体験などのプログラムが用意されている。酒蔵は、霧ヶ峰高原の伏流水を使って仕込みを行っており、霧ヶ峰高原の自然の恵みをいただき、感謝しながら日本酒を作っている。その思いを酒蔵を訪れるお客様にお伝えしている。また、諏訪湖カヤック体験では、カヤックを通じて諏訪湖の環境について知っていただく機会にしている。このように単に観光をするのではなく、お客様に体験を通じて自然を守る大切さや、地域住民がこのように環境を守る取り組みを行っていることをお伝えしている。

<中部>

ウェルカムセンター(福井市観光案内所)

- 福井市東郷地区が観光の先、故郷を感じる「微住」発祥の地として、台湾などとの交流(その地にしばらく滞在し、地元の方々との自然な温かい交流によりその土地に住む感覚を持つ)を深めている。微住は他に、鯖江市河和田地区などにも広がっている。地元の方々のおかげで深い体験が得られ、独自の観点から今後の新しい観光誘致が期待される。
- 既にある取り組みとして、あわら市の風力発電、木質バイオマスなどで再生可能エネルギー先進地としてアピールし、修学旅行の誘致に成功している。
- 「福井駅前短編映画祭プログラム」が、観光映像ポータルふくいサステナブルツーリズムを立ち上げ、素晴らしい観光映像で事例を紹介する動きが始まった。
- 越前町瀬戸地区では、雪が月あかりで青色に光る唯一の地として、それを見るためだけに旅する方々があると地元と協同して打ち出していく方向。
- その他、平泉寺や足羽山では県内外にサポーターを募り、共に整え改善し、より良い観光地として発信している。また、休耕田を利用した広大なコスモス公苑や、越前町の段々畑を利用した大規模なペットボトルの絶景ライトアップ(LED)などが行われている。

「観光は大体したので、自転車でゆっくり各地をまわりたい」という方もおり、少しずつ観光の形が変わってきている事を感じる。

坂井市東尋坊観光交流センター

国内最大級の柱状節理の断崖が 1km 以上も続く東尋坊は、国の天然記念物・国定公園に認定されている。ここ東尋坊では、永久的な自然、有限的な文化的価値、そして高い、この三つのバランスをいかに保つか、ということ念頭に置いている。「環境共生」のために、共存形態のバランスの再調整が必要と考え、昨今では自然の再生を進めている。駐車場に植樹し緑化を図るなど、小さな取り組みからではあるが、後世にこの素晴らしい自然を残しながらの観光を模索し続ける。

えちぜん鉄道三国駅観光案内所

これまで、「守ること」＝「手を加えないこと」として受け継がれてきた登録有形文化財である「旧森田銀行」が、昨年人を繋ぐ場として「守り活かす」ことをコンセプトに「THE MORITA BAR」として試験的に限定日のみではあるがオープンした。今後についてはまだ不明だが、継続的な事業にできるよう取り組み段階。また、この地ならではの食材、三国港で獲れる甘えびを活かした中長期ビジョン「美食の郷」を策定中。地元の有名レストランや漁業組合と協力し、レシピ考案など計画。また、今年規模縮小で開催された北陸三大祭では、お土産付のオンラインツアーを行い、たくさんの三国祭ファンがその様子をオンラインで楽しんだ。

中央道 恵那峡サービスエリア 下り線 エリア・コンシェルジュ

江戸時代の旅が味わえると馬籠宿、妻籠宿が外国籍の観光客に人気。日本人観光客が減少する中、外国籍の観光客の割合が全体の6割超となっている。過去に英BBC放送にて紹介されてから一気に海外からのお客が増えた。コロナで現在は日本人、外国籍の観光客共に減少しているが馬籠宿、妻籠宿では外国籍の観光客向けのパンフレットなどを用意して対応している。

中央道 恵那峡サービスエリア 上り線 エリア・コンシェルジュ

自然豊かな中山道、馬籠宿をはじめ苗木城跡や付知峡など観光スポットが有り、近年では外国籍の観光客、特に

旅のスタイルにこだわりを持った個人旅行者が増えている。「馬籠・妻籠」を訪れる欧米豪のハイカーをターゲットにしたモデルコースの作成や、情報発信などを行って外国籍の観光客の誘客を図っているそうだ。

奥飛騨温泉郷観光案内所

- 環境に配慮した電気自動車・自転車で観光する「モビリティステーション奥飛騨」

<https://www.okuhida.or.jp/news/detail?id=15012>

- 飛騨山脈を起源とするジオサイトをめぐるツアー「飛騨の砂守」

<https://www.okuhida.or.jp/news/detail?id=14005>

- 県境をまたぐ乗鞍岳を一貫して楽しむ取り組み「乗鞍ライチョウルート」

<https://www.okuhida.or.jp/news/detail?id=15246>

- 地域の宝を再認識「飛騨山脈ジオパーク構想」 <https://hidageo.com/>

- 地域の災害に関する歴史と取り組みを知る「さぼろ塾」

- 数億年前の地球の記憶をたどる「福地化石館」

- 地域の文化や歴史に触れる「平湯民俗館」

新東名 NEOPASA 清水 エリア・コンシェルジュ

富士山や三保の松原などでは環境保全のためのゴミの持ち帰りなどの呼びかけを行っている。各観光施設のホームページも近年魅力的なものが増え、ホームページを見た方が行ってみたいと思えるものが多いと思う。以前は、静岡市独自で市内で宿泊した方に静岡市内の店舗で利用できるクーポン券を配布するなどの事業もあった。

浜松市観光インフォメーションセンター

- 子ガメ観察会:毎年8月中旬から10月上旬に開催。生まれたばかりの子ガメが太平洋の大海原へ向かっていく様子を観察する。親ガメが産卵する時期には親ガメ産卵調査の公開も行われる。遠州灘に面した中田島砂丘でのアカウミガメを中心とする野生動物の保護と自然観察会を行う「特定非営利活動法人サンクチュアリ N.P.O.」詳細は <https://www.sanctuarynpo.jp/>

- 天竜浜名湖鉄道二俣本町駅「駅舎ホテル インマイライフ」:2019年5月14日オープン。無人駅の元駅長室をリノベーションしたホテルで、一日一組限定の宿泊。朝食は地元天竜の食材、リネン類は遠州織物、食器は浜松のものなどオール浜松へのこだわりがある。旧国鉄の天竜浜名湖鉄道は全線にわたり、国の登録有形文化財に登録されている。また、最近ではテレビアニメ「ゆるキャン△2」のモデル地、シン・エヴァンゲリオン劇場版のモデル地としても話題になっている。 <https://www.innmylife.com/>

三島観光案内所

三島市には富士山の湧水が流れるせせらぎが街中にいくつも流れている。2016年に世界かんがい施設遺産に認定された「源兵衛川」を中心に、三島梅花藻や三島どじょう、蛍の保護や水路の環境整備など、市民を挙げて取り組んでおり、観光客の方々にもその美しさが人気となっている。今年、三島市広小路が静岡県で「本当に住みやすい街大賞」に選ばれた要因の一つと言えるかと思われる。

舘山寺温泉観光案内所

傘下のNPO 浜名湖観光地域づくり協議会で地引網体験と浜名湖で獲れる魚のレクチャーを行っている。その他、NPO はまなこ里海の会が「生命のゆりかご アマモ」の観察会を行い、浜名湖の自然を守る教育をしている。またビーチ清掃や周辺の山の手入れなど、他団体と協力して行っている。

富士山御殿場・はこね観光案内所

「古くからその地で育まれてきた地域の有形無形の伝統・文化資産」としては、毎年11月末、御殿場駅から徒歩30分ほどの場所に位置する高尾山穂見神社(静岡県御殿場市御殿場196)を主な会場として、「高尾祭」が開催される(2020年は新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止)。この地方では古くから冬の訪れを告げる行事として開催されており、夜通し祭りが開催される他、高尾山穂見神社周辺に屋台が軒を連ね、その屋台で品物を購入すると威勢の良い手締めが行われるのが特徴。

名古屋市金山観光案内所

- 有松・鳴海絞会館では絞の実演会や体験教室が行われており、気軽に参加することが可能。また、地元のまちあるきツアーなどを企画する大ナゴヤツアーズでも定期的に有松の散策や体験を盛り込んだツアーが開催されている。<https://shibori-kaikan.com/arimatsu-isan/> <https://dai-nagoyatours.jp/>
- 毎年秋に名古屋市内にて「やっとかめ文化祭」が開催されている。芸どころと呼ばれている名古屋らしく、歌舞伎や狂言、講談などがまちなかで開かれ、市民の方々が気軽に立ち寄ることができるようになっている。また、まちなか寺子屋として、名古屋の経済や文化なども同時開催されている。特に人気なのがまちあるきツアーで、名古屋の歴史をよく知る地元のガイドと共に各地をテーマに沿って巡ることで名古屋の新たな発見や学びへと繋がっている。<https://yattokame.jp/>
- 名古屋市は平成27年に一般社団法人日本フェアトレード・フォーラムより日本で2番目のフェアトレードタウンとして認定された。その経緯もあり、フェアトレード関連のイベントが開催されている。オアシス21iセンターが入っているオアシス21という施設では2021年7月よりエシカルSDGsワークショップ「日曜アトリエ」が第2・4日曜日に開催されている。<https://www.sakaepark.co.jp/events/4087/?irregular=6>
- 既存の調査で「最もつまらない都市」という不名誉な結果を得たこともある名古屋が、実はとても魅力的であることを海外へ発信するため、昨年4月に名古屋市在住のスペイン国籍のヨピス・エリザベスさんとドイツ国籍の山口レナさんが「ナゴヤ・イズ・ノットボーリング」というサイトを立ち上げた。現在はコロナ禍で訪日客の需要が激減しているが、アフターコロナを見据えて、最近ではイギリス向けにオンラインセミナーを実施するなど、外国籍の方目線で名古屋の魅力を海外へ発信されている。
Nagoya is not boring <https://www.nagoyaisnotboring.com/>

東名道 豊田上郷サービスエリア 下り線 エリア・コンシェルジュ

豊田上郷サービスエリアのある豊田市では、古くからの建物の歴史・文化がある。

- 豊田市郷土資料館:豊田大塚古墳の発掘を契機として貴重な歴史的資産を活用し、後世に伝えるために1967年1月16日に開館。市内豊松町から移築された民家(民俗資料館)や古墳、土蔵などを配置している。
<http://www.toyota-rekihaku.com/>
- 豊田市近代の産業とくらし発見館:大正10年に建設された旧愛知県蚕業取締所第九支所の建物(国登録文化財)を活用した展示・体験施設。<http://www.toyota-hakken.com/top.html>
- 豊田市小原和紙のふるさと:愛知県豊田市小原地区で生まれた豊田小原和紙工芸の普及発展を目的に設置された参加体験型の博物館。豊かな自然に囲まれた施設には、紙漉き体験実習を行う「和紙工芸体験館」、豊田小原和紙工芸や総合芸術家藤井達吉の美術工芸作品、全国の和紙資料を紹介する「小原和紙美術館」、本格的に取り組みたいクリエイターやワークショップに利用できる「和紙とうるし工房」、和紙原料植物を栽培する「見本園」、小原の自然を満喫できる「遊歩道」などがある。和紙のふるさとでは工芸和紙を鑑賞したり、実際に紙すきなどを体験することもできる。<http://www.toyota-hakken.com/top.html>

名鉄トラベルプラザ

案内所のある常滑市は、日本遺産に認定された「常滑焼」が有名で、招き猫の産地でもある。やきもの散歩道と呼ばれる遊歩道があり、やきものや招き猫が飾られた通りや、窯場やレンガ造りの煙突、土管や焼酎瓶が積まれた風景など情緒的な風景が続く。陶芸や絵付け体験ができる施設や、常滑焼の食器を使ったカフェなどもあり、旅行者など訪れた人は伝統を感じることができる。散歩道の途中には、空き家となっていた場所が整備され、土管坂休憩所が造られた。休憩所だけではなく地元の人々と観光客のコミュニケーションの場として、また学生のワークショップの場として、多角的な活用が可能な施設になっている(緊急事態宣言中は休館)。

東名阪道 EXPASA 御在所 下り線 エリア・コンシェルジュ

四日市の焼き物で有名な万古の里などでの万古焼の1日陶芸体験教室や、湯の山にある御在所岳の麓、陶芸村で陶芸作家指導の下での陶芸体験がある。伊勢志摩方面では現役の海女さんの話を聞きながら新鮮な食事ができる海女小屋もある。

志摩市観光案内所

- 志摩市はSDGs 未来都市に選定されており、サステナブルツーリズムにも力を入れている。
- 海女によるアワビ、サザエなどの伝統的な漁法も、実は非常にサステナブルで、志摩の海の生産性を護ってきた。「海女小屋さとうみ庵」では観光客が直接海女と話しながら志摩の食を楽しめるような場がある。また、海女と共に潜るといった体験的な観光も行っている。
- 最近では伊勢エビ漁をサステナブルに行うよう、漁協が指導力を発揮し、伊勢エビの共同操業を行っている。また年に1度、観光客もイセエビ漁の船に同乗してイセエビ漁の体験ができる。
<https://www.city.shima.mie.jp/kakuka/seisakusuishin/SDGs/1529666908769.html>
- 志摩市は英虞湾、太平洋に面しており、生活・文化・観光・経済を守るために海のサステナブルな環境を大切にしており、15年以上前から「海の健康診断」、「海を活かしたまちづくり」などに取り組み、国内のみならず国際的にも高く評価されている。

松阪駅観光情報センター

松阪の観光は、御城番屋敷、松阪城跡、旧長谷川治郎兵衛家、旧小津清左衛門家など、多くが歴史・文化を守り、ガイドボランティアが案内を行っている。ガイドボランティアが、地元の子どもたちに案内することで、地元を知り、遠くに行けない状況の中でも地域の良さを伝えている。※コロナ感染拡大防止のため、現在は休止中

以上